

みんなで未来の高校のアイデアを考えよう！

しがの高校をリ・デザインする
県民ワークショップ

第1回 開催報告

9月23日（水・祝）
13:30～16:00



しがの高校をリ・デザインする 県民ワークショップ

第1回 開催概要

日 時：2026年9月23日(水・祝) 13:30～16:00

会 場：滋賀県庁 新館7階 大会議室

参加者：26名

主 催：滋賀県教育委員会

当日のスケジュール

13:30	開会・教育委員会からの説明 / ワークショップの説明
14:00	第1ラウンド 高校で「もっとこうだった」ことは？
14:30	第2ラウンド アイデアをたくさん出そう
15:05	第3ラウンド アイデアをもっと深めよう
15:35	発表・共有
15:55	まとめ



このワークショップについて

滋賀県では、2040年を見据えた高校教育の将来ビジョンの策定を進めています。本ワークショップは、その検討に県民の声を反映させるため、中高生・大学生から保護者、教職員、地域・企業の方まで、さまざまな立場の人が集まり、これからの高校の在り方を対話で考える場として県内6か所で開催します。

参加者

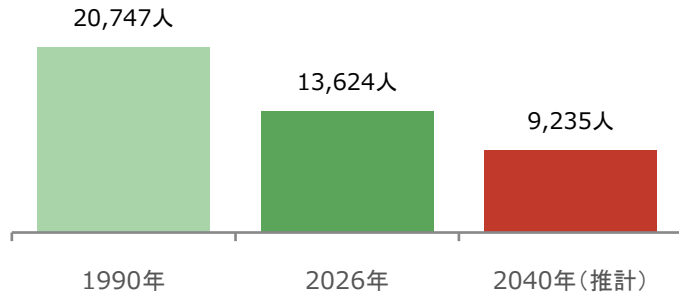
高校生3名、大学生1名、保護者2名、教育関係者8名

企業・教育事業・NPOなど7名、地域住民・自治会3名、行政・議会2名

2040年を見据えた高等学校教育の在り方について

滋賀県教育委員会から、滋賀県の高校教育を取り巻く課題について説明がありました

1 生徒数の減少



滋賀県の15歳人口（中学校卒業予定者数）は、2026年から2040年までに約4,389人減（約110クラス分に相当）の見込み。

- ✓ 生徒数の減少に合わせた学校規模の検討
- ✓ 地域の実情に応じた配置・役割
- ✓ 多様な学びの場の確保

2 学びの多様化と授業料無償化

学習ニーズの多様化

- ・ 生徒の興味・関心や進路希望等に応じた学びの多様化への対応
- ・ 不登校生徒の増加に伴う対応や、外国人生徒等の多様な学びへの対応

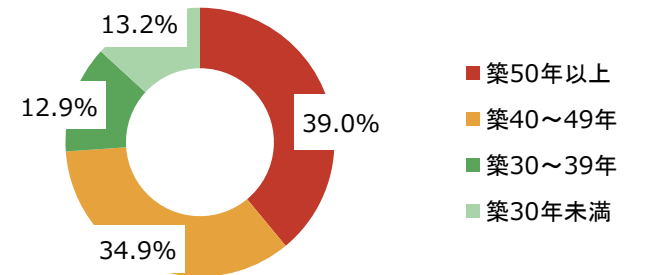
地域とのつながりによる学びの展開

- ・ 地域や企業との交流、地域人材の活用等による高校教育の魅力化
- ・ 地域課題の解決に主体的にかかわる、地域の将来を支える人材の育成
- ・ 地域の小中高の学校段階間の円滑な接続

国による高校授業料無償化の拡大（令和8年度～）

- ・ 公立・私立を問わず経済的負担が軽減
- ・ 県立全日制高校の平均志望倍率が1倍を切る
- ・ 県内私立全日制高校への志望割合が15.9%で過去最高

3 校舎等の老朽化



- ・ 将来的に多くの学校で改築や大規模改修が必要となり、その経費負担が大きな課題に。
- ・ 魅力化の観点から、施設・設備の充実（専門的な学びに対応した設備機器、体育館空調など）も必要。

4 課題のまとめ

多様な生徒一人ひとりが「滋賀」という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進めるとともに、時代に合わせた新たな学び、県立高等学校の配置の在り方等を検討し、**生徒、保護者から進学先として選択される、魅力ある高校づくり**を進めていく必要がある。

第1ラウンド：高校で「もっとこうしたかった」こと

授業・通学・部活動・放課後・進路選択など、高校時代の暮らし全体を振り返り、意見を出し合いました

学校の枠をこえて 学びたかった	・他校の生徒と授業を一緒に受けて交流したかった ・他校の生徒と学び合う機会がほしかった ・他学年との交流がもっと欲しかった ・チームのある競技で人数がそろわない ・部活以外で近くの施設と関われない ・高校に留学生が来て、異文化を知る環境が欲しい	通い方・時間・ 居場所	・家の近くに行きたい高校がなかった ・駅から遠かった ・帰宅の時間に合うバスがない、バスが全然来ない ・学費・交通費が高い ・通学制と通信制のハイブリッド型の高校があれば通いたかった ・部活と勉強で追われて遊べない、時間のゆとりがない ・放課後に、部活に行く以外の選択肢がほしい ・放課後に安心して行ける場所がほしい ・自習室、夜遅くまで勉強できる場所がほしい
地域・社会と 繋がりが あった	・もっと地域に参加すればよかった ・もっと色々な地域の大人に話を聞いたかった ・オモロい大人と出会いたかった ・学校が閉じている ・部活以外で近くの施設と関われない ・社会を知る機会がほしかった（企業、他校など） ・高校・部活・塾・バイト以外の社会との接点がほしい ・大学の授業みたいに、地域の困り事について考える授業がほしい ・もっと滋賀県に興味を持っていれば	相談できる人・ 学校の雰囲気	・先生が忙しそうで話を聞いてもらえない ・相談できる相手がいない ・自分がやりたいことのヒントを教えてくれる、相談しやすい人が高校にいてほしい ・キャリアコンサルタントがいてほしかった ・先生の部活の負担 ・たくさん失敗して、たくさん挑戦したかった ・間違ったらダメみたいな雰囲気 ・同調圧力やめてくれ ・生徒の裁量、権限がほしい
もっと 選 び た か っ た	・文理選択が早すぎる ・文転・理転する機会がほしい ・好きな科目を深掘りできる時間を学校でもてると良いな ・やりたいこと、やりたい学びから科目を選びたい ・教科・科目間のつながりがもっと欲しい ・なんのためにこれを学んでいるの？ ・もっとフィールドワークに行きたかった、体験学習を多くしたかった ・お金の勉強をしておきたかった ・少人数で学びたい	進路・キャリア	・「やりたい」が見つからない ・大学のこと、将来の仕事がわからなかった ・働くってそもそも何？ ・「起業」という選択肢を知りたかった ・（進学校だったので）就職の仕方を教えてほしかった ・もっと多様な人生設計が見えていれば ・大学の学部・学科を学ぶ機会がほしかった ・中学卒業時での選択の重さ
学校生活・施設	・部活動は、ガチのものも、大学のサークルみたいにゆるくやるものもあると良い ・部活の指導者がほしかった ・学食がほしかった！ ・校舎が古め、雨漏り ・エアコンを増やして！！ ・文化祭・体育祭・修学旅行以外のイベントがほしい		

第2ラウンド：アイデアをたくさん出す

困りごとを「○○できる高校とは？」という問いに変えて、自由にアイデアを出し合いました

学校の 枠をこえる	・近隣校との共同イベントを開催 ・普通科と工業・商業の交流 ・オモロイ授業は他校でも共有 ・高校と大学が連携したオープンキャンパスを	支える人・ 体制	・地域コーディネーターを各学校に ・外部講師と学校をつなぐコーディネーター ・学外連携の窓口を一元化（高大連携、地域連携など） ・進路指導（情報提供）は学校ごとではなく地域全体で ・キャリアコンサルタントを配置 ・民間人講師を入れる ・教員の教材研究の時間を確保 ・教頭補佐の設置、教員のメンタルケアの拡充 ・先生のスキルをデータベース化し、 興味のある分野で部活などに関われるように
地域と つながる	・地域に出て学ぶと単位がもらえる ・地元らしい学科を地域と作る ・学校行事は地域と共催、地域の企業とコラボ ・高校生が地域の祭りを運営 ・地域食材の給食・学食（生産者の説明つき） ・小・中学校への出前授業	大人との 出会い・ 進路	・大人を楽しんでいる大人に出会える仕組み ・地域の大人図鑑 ・OB・OGとの交流、同窓会でタテのつながりを ・インターンシップ、印象に残る職業体験 ・高校生商いコンテスト ・高校マップ（中学生の学校選びの材料に） ・就活を授業に
もっと 選べる	・卒業に必要な単位以外は、選択制に ・半期で単位認定 ・外部の学びやアルバイトも単位に ・「総合的な探究の時間」に先生の 得意分野の講座を開いて生徒が選ぶ ・授業を精選して、カリキュラムに余裕を ・1クラスの人数を減らす、クラスで固まらない	遊び心の ある アイデア	・一週間お寺で修行してみる ・農家とコラボして自給自足キャンプ生活 ・びわ湖の船で学ぶ「うみのこ」の高校生版 ・脱出ゲームのヒントが地域にある
通い方・ 時間	・基礎科目は遠隔で、特色ある科目は高校で ・オンラインと対面を併用、自宅で取れる単位 ・駅近に教室　・寮 ・家からのスクールバス、乗り合いバス・タクシー ・放課後の時間をもっと多く ・学内にカフェやオープンスペースを		

第3ラウンド：アイデアを深める

中心にしたいアイデアを選んで深め、提案にまとめました

新しい学校のかたち

高校のキャンパススタイル～選べる授業～

卒業単位は今まで通り、+αでボランティアや講演会、別の高校の授業も選べる

オンライン・データバンク＝リアル体験

共通の学びはオンラインで、リアルな特色は各校で出していく

大学型高校

ホームルームや文理選択をなくし、多彩な授業から選ぶ。授業は5～6限までにして自分の時間を充実

県立地域起業高校

3年間で地域課題を解決する事業を構想し、卒業と同時の起業を目指す

「滋賀まるごと高校」誕生!!

地域の全てが教室。
部活には他校生や中学生も参加できる

アットホームな空間×出入り自由な高校

高校を拠点に、OB・OG、地域の企業、中学生、社会人が集まれる場に

行きたい学校に行きやすく、地域とつながる高校

湖西線とびわ湖線をつなぐJR環状線で通いやすく。地域・学校・コーディネーターの循環を

地域・社会とつながる

高校×地域

企業や地域活動での学びを単位に。大学のようなゼミを地域と連携して行い、発表の場も

教えて!!高校生～地域と関わる特別な1日～

高校生が地域の小・中学校で授業や地域を知る活動を行う

高校生のワークチャレンジ／高校の枠をこえた部活動

地域企業が公募した仕事に高校生がチームで応募。部活は祭りや防災など世代をこえて

NEXT部活動

社会人と高校生を分けずに、県のサッカー大会を高校生中心に新しく作って運営する

給食全メニューを「〇〇さんの」に

学食や購買の食材を地域産にし、生産者の名前やストーリーを知る

みんなのカフェ

生徒と地域の人で運営する校内カフェ。地域の人も使え、1人でも居られる場所に

学校の枠を越えた交流の場を作る

合同体育祭、企業からの案件依頼、OB・OGとの進路相談、地域との企画

学び・授業を変える

総合的な探究の時間をもっと楽しく、おもしろく

先生が得意分野の講座やゼミを開き、生徒が自由に選ぶ。先生の負担は増やさない工夫も

「ライフデザイン」の科目を必須にする

いろいろな人との出会いや、自分の将来を見つめる時間を授業に

「自分」と「社会」を知る学校

Will・Canの自己分析と、地域全体での情報提供・機会づくりでキャリアを考える

社会人の現実。

自己分析、職業選択、お金、人とのつながりなど、社会人に必要なことをリアルに学ぶ

学習の頭から離れて、探究の頭になれ

大学でやっているような学びを、高校の授業から始める

街の大人を口説け

会ってみたい大人を自分で調べ、授業に来てもらえるようプレゼンする

自分達で授業を作る高校

地域の人に講師や出店をしてもらう授業を生徒が企画する

週一で学外からの特別講師

専門家のデータベースから生徒が選んで、来校・訪問してもらう

学校を支える人と体制

事務サポート職員の雇用

教員が質の高い授業を準備できる時間を確保するため、事務を担う職員を配置する

地域連携課を高校に作る

地域企業・小中学校・自治会と高校をつなぐ窓口を校内に。担任のサポートや地域担任制も

先生のインターンシップ（サバティカル制度）

生徒が越境するなら、まずは先生から。地域の現場や経営を経験できる人事制度に

先生が地域を好きになる。地域教育を教職課程に

「これをしたいなら〇〇先生に。」と言えるように

タテのつながりを基にした学校創造

教職員とOB・OG、地域住民と一緒に学校文化や探究の担い手に

校長オモロープロジェクト

学校ごと、生徒ごとの「オモロイ」を実現できる制度を。校長が認めやすい時代へ

共有して!!

他校・地域・卒業生とのつながりの事例を、県立高校生みんなで共有する

参加された方の声（アンケートより、一部抜粋）

Q1 今日の話し合いで、いちばん印象に残ったのはどんな話でしたか

- ・「学び」は地域、社会、世代を超えた交流の中にあるということを、たくさんの方が考えていることがわかった。
- ・学校改革を、現役の先生でここまで考えておられる方もいらっしゃるんだということが知れて、少し安心しました。
- ・生徒が学校の中だけで学ぶのではなく、学校外や地域で学べるようになることが理想。選択肢がもっと多様になることが理想（教育課程、部活動等幅広く）。
- ・情報や機会について、学校ごとでクローズにするのではなく、地域全体でオープンに共有できるべきだという考え方を、自分以外にも持っている人が多かったこと。
- ・高校間で基礎的な科目はICTで合同実施。教育的なリソース配分を見直し、各校の特色あるカリキュラムや教育実践に全振りする。
- ・大学の授業のように、自分が学びたいものを選択して学習をしていくことが大切だと考えました。好きじゃないと学ぼうとしないし、好きだからこそ深く探究することができると思います。
- ・高校をおもしろい場、おもしろい人に出会える場にすれば…という思いの強さ。
- ・勉強や部活で時間の余裕がなくて、将来や進路のことについて考える余裕がない、なかった。
- ・高校生の困っていることを言語化した際に、「ヒエラルキー」や「同調圧力」など、モヤモヤしていたことが言語化されて良かった。
- ・理想と現実の差。結局、先生方の本業以外の負担が大きいがために、授業の充実や選択肢の拡充に時間が割けない。

Q2 今日、伝えきれなかったことはありますか

- ・各高校に、地域とつなぐコーディネーターの配置をしてもらいたい。
- ・探究のサポートにはコーディネート能力が必要。
- ・公立（県立）高校も同窓会を組織し、タテのつながりを強化。教員も担い手として、新たな文化を作ると良い。
- ・公立高校に新しく、地元らしい学科を地域といっしょに作りたい。
- ・専門高校のイメージ再生計画のようなものを提案できればと思った。
- ・進学校には進学校が目指すべき未来があって、すべてに地域とのつながりを求める必要はないし、すべきではないと思っています。
- ・キャリアを考えるには社会を知る（選択肢を広げる）だけでなく、自分を知る（選択基準を持つ）も必要。今は前者がフォーカスされがちだが、いずれ後者も課題視されるときが来るはず。
- ・学生が興味を持てるしくみづくりの上での働きかけがベストだと思いました。
- ・誰もが学びやすい高校（不登校対応含む）
- ・バスの本数を見直す、スクールバスを設置するなどしてほしい。

Q3 今後、こんなことを話し合ってほしいというテーマはありますか

- ・教師ができること、県庁ができること、各学校ができることの規模別に話し合いたい。
- ・今回は県域での話だったので、今後はその地域での話・アイデアが多くなるといい。
- ・実行力や思いのある方が集まる場で出たアイデアを、次に進める話し合いの場があると良い。
- ・参加者がチームとして動き出せるような内容があれば、コミュニティにつながると感じます。
- ・公立（県立）高校間の差異、学校の特色をどう作り、根付かせていくか。
- ・新しいカリキュラムの実現。
- ・少子化時代、AI時代に、人はどのような能力を育成すると良いのかを議論してほしい。
- ・滋賀の歴史をふまえた学びを考えたかった。
- ・地域に対する高校生の興味をどう高めるか？ 高校をどう広く開くか？
- ・高校生が地域の人や起業家の人と交流できるためにはどうしたらいいのか。
- ・大人は高校生に、何を求めているのか。 ・先生のモヤモヤはどんなこと？
- ・生徒会・部活のあり方。



会場の様子